

ベトナムにおける コロナの現状と課題

チャン ホアンナム

徳島大学講師、元ベトナム保健省専門官

2021年5月、ベトナムにおける新型コロナウイルス感染症患者数は約4000人で、新型コロナウイルス関連の死亡者はわずか35人と、新型コロナウイルス対策に関して世界で最も成功している国の一つでした。

その後、デルタ株による第4波が急速に拡大し、前例のないコロナ危機に見舞われました。2021年9月中旬では、ベトナムでは確定感染者数は69万人以上、回復者数46万人以上、死者数1万7000人以上となっています(図)。ベトナム最大の都市であるホーチミン市では、致死率は4・17%でピークに達し、全国平均の2・51%をはるかに上回っており、ホーチミン市は全国の感染者の半分以上、死者数の

80%近くを占めています。2021年8月、ベトナムは日経コロナ回復指数(コロナ禍からの社会・経済の回復度合い)で121/121と最下位でした。本稿では、ベトナムが第3波まで対応に成功した一方、デルタ株の第4波で難航している状況を振り返ります。

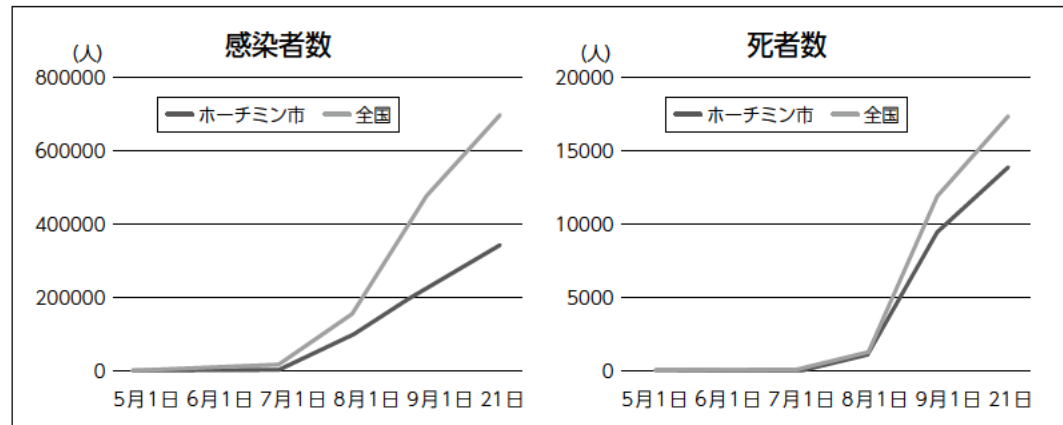
新型コロナウイルス発生3波まで成功した新型コロナウイルス対策

ベトナムの人口は約9800万人で、その北部は中国と隣接しており経済的なつながりも強い国です。2020年1月に中国で世界最初の新型コロナウイルス感染者が報告された直後の、1月23日にはベトナムでも2人の感染者が確認されるな

ど、新型コロナウイルスの影響を受けた最初の国の一つでした。ベトナム政府は、中国での世界最初の感染者が報告された直後に、パンデミック対策に早期かつ積極的に対応を始めました。コロナの検査、追跡、および検疫に基づく予防的制御戦略は、2003年の重症急性呼吸器症候群(SARS)の流行、および2004年からの鳥インフルエンザの成功体験を生かしたものでした。そのため、2021年3月時点では、人口100万人当たりの感染者数と死亡率が最も低い国の一つでした。

ベトナムの対策の特徴の一つは、その綿密な接触追跡の取り組みです。集団検査を実施できないため、感染疑いの人、その周りの接触者および地域を中心とした検査の実施、さらに厳格な14日間の隔離、F1システムで感染者と接触者を追跡しています。F1システムとは、F0は新型コロナウイルスに感染した人をいい、F0を発見した場合は、指定病院で隔離します。個人情報保護のため、感染者には「患者番号」が付けられます。F0は3回の陰性検査により隔離から解除されます。F0の接触者はF1と見なされ、検査と監視のため、施設または自宅

図 第4波の感染者数と死者数(累計)



出典：ベトナムの保健省

で隔離されます。症状がなく3回陰性であれば、F0との接触から14日後に退院または隔離解除されます。F1の接触者はF2と見なされ、F1が特定されると、F2のリストが地元のコミュニティ当局で作成され、

その監督下で14日間自宅で隔離します。F2の接触者であるF3は、監督なしで14日間自宅隔離し、同様に、F4も自宅隔離になります。ベトナムでの第1波から第3波までの状況は以下の通りです。

◎第1波(2020年1月23日～4月)・・・武漢からの新型コロナウイルス感染者2人がホーチミン市で見つかり、その後、全国13地域でも見つかりました。3月22日からすべての外国人の入国を停止し、ベトナム国民の入国に14日間は指定の施設での集中隔離を導入しました。4月1日から、15日間の全国的なロックダウンを実施しました。

◎第2波(2020年7月～12月)・・・約5000人の感染者が発見されました。感染中心地は観光地のダナン市で、7月28日にダナン市は15日間都市を封鎖しました。全国でダナン市に関連した数百の症例が検出され、7月31日にベトナムで初めての死者が出ました。第1波と同じ対策を実施することで第2波も抑制でき、その後すべての経済活動が再開できました。

◎第3波(2021年1月～3

月)・・・感染が爆発し、約9000人の感染者が発見されました。そのうち80%がハイズオン省で発生し、当初、政府は感染者に直接関係する地域のみを検疫しましたが、半月後も件数増加が止まらないため、2月中旬に同省全体が15日間封鎖されました。ハノイ市とホーチミン市でも娯楽活動を一時的に停止するなど、ソーシャルディスタンス対策を強化しました。第3波では、追跡プロセスの遅さ、隔離施設の管理ミス、長期間封鎖を無視する人々のために、従来の対策では効果が出なくなってきました。

このようにベトナムは、新型コロナウイルス対策として、発達した公衆衛生システム、トップダウン政府を背景に、検査、追跡、隔離などの積極的な封鎖戦略の実施により、2020年～2021年5月、新型コロナウイルス拡大における最も有効な対策国の一つとして世界のメディアから評価されました。

第4波と今後の課題

第4波は、2021年5月から始まり現在も続いています(図)。デル



封鎖中の市内市場の柵に置かれた食品等の販売・配達の広告看板(2021年8月、ハノイ市にて知人撮影)

タ株による感染の爆発とワクチン接種率の低さが相まって感染防止効果が低下しています。バクザン省の工業団地で大きなクラスターが発見され、その後ホーチミン市や周辺の省でも感染爆発し、感染の連鎖の追跡が不可能になりました。工場隔離、つまり「食事・生活・作業」を工場内で行うという対策が導入されました。

全国では、5月以降60万人の感染者が発見され、7月に1日当たり数千人の感染者数に増えたとき、中央政府はハノイ市とともに南部地域全体の3500万人を封鎖することを決定しました。8月には1日の感染者数が1万人を超え、病院が過負荷状態になり死亡率が増加しました。この悪化する状況に備えるため、ベトナム保健省は30以上の野戦病院を整備し、3万床を設置しました。

ホーチミン市は全国の感染者数の半分、死者数の約80%を占めたため、感染者対策のための人材、酸素などの治療設備、死亡者に対する焼却炉等が不足するなど、医療システムが崩壊寸前となり致死率は4・95%に達し、インドネシアの3・7%を上回りました。また、ホーチミン市は国の経済の中心地であるため、コロナの流行によって国の経済混乱をもたらしました。封鎖制限の下で住民は緊急時を除いて外出ができません。最初は食料配達業者が行っていましたが、対象者が多いため政府は食料を供給するために1万人の軍隊をホーチミン市に動員しました。しかし、軍隊が市民に食料配達するには課題が多く発生したため、この措置は解除され、この任務は食事配達業者に戻されました。

このようにデルタ株の伝染性が高いため、以前に成功した新型コロナウイルス対策では不十分となり、政府は混乱し対策が頻繁に変更されました。そのような中、新しい感染クラスターが日々発見され、感染者数と死者数は急速に増加してきました。過去に有効であった「F0(感染者)の排除」と「工場隔離」

という「ダブルターゲット」作戦を3か月間実施したところ、ホーチミン市とその近隣の各省にこれらの作戦の欠点が見つかりました。そこで、保健医療サービスの負担軽減のため、2021年9月から保健省はF0を集中隔離の対象とせず、自宅隔離することとしました。

2021年7月よりロックダウン中の移動制限のため、住民の移動の際には通行証の準備や、感染リスクの度合いが色分けされた「新型コロナウイルス感染症マップ」の確認などの面倒な手続きも多く、違反者には高額な罰金が課せられました。そのため、住民には不満やロックダウンに抵抗する人もおり、その結果、感染拡大はより深刻になり、保健医療サービスに重い負担がかかりました。

ワクチン接種の状況

ベトナムでのワクチン接種実施は、アジアの中では遅れています。2020年5月から、世界のワクチンメーカーと交渉を開始しましたが、早期にワクチンを調達することができませんでした。2021年初旬より、共産党大会や総選挙な

どが行われたため、政府はワクチンの調達と予防接種の準備にも影響を及ぼしました。

ベトナムのワクチンの主要な供給源はCOVAXです。パンデミックがより深刻な他の東南アジア諸国（インドネシア、タイ、マレーシアなど）は、COVAXによって優先的に供給されています。ベトナム人は、中国Sinopharm製ワクチンの接種には躊躇することもあり、これがワクチン接種率を低下させる要因の一つです。2021年8月、ワクチン接種率はカンボジアの36・5%と比較して、ベトナムは2%未満です。9月以降、ワクチン接種のスピードは加速され、現在4・3%が2回の接種を終了しています。

政府は、世界中で必要とされているワクチンの輸入を確保することに苦勞してきました。デルタ株の流行に伴い、ワクチンを急ぎ購入するため、ファム・ミン・チン新首相はCOVAXにベトナムを優先するようお願いしています。

ベトナムは、AstraZeneca製、Sinopharm製、Pfizer-BioNTech製、Moderna製など7種類のワクチンを承認しました。2021年末までに、合計1億5000万回の接種

種を目指しています。また、ベトナムでは現在、4つの新型コロナウイルスワクチンを開発中です。2021年6月、Zanovaxは1万3000人のボランティアを対象とした第3期臨床試験に入り、早ければ2021年末には、国産ワクチンの提供ができる可能性があります。

組織構造

2020年1月以降、新型コロナウイルス感染予防と抑制のための国家運営委員会が国のトップレベルの機関として設立され、副首相のウー・トゥック・ダムをはじめとして、保健省、公安省、国防省、外務省、情報省、その他20政府機関の代表メンバーで構成されています。保健省はこの委員会の調整機関になりました。2021年8月、委員会はファム・ミン・チン首相によって再編成され、「健康、公安、社会福祉、金融とロジスティクス、製造と調達、資金調達、社会動員、宣伝」を担当する8つの小委員会に分けられました。

おわりに

ベトナムは、ワクチン不足とデルタ株流行の中で高い感染率と死亡率でさまざまな対策を模索しており、今後のロックダウンの緩和と経済活動の再開とのバランスの調整が難しい状況にあります。特に、政治の中心であるハノイ市、経済の中心であるホーチミン市における感染拡大は、住民の生活にも大きな影響を及ぼします。

8月29日、首相は、ベトナムは新型コロナウイルスとの戦いが長引く可能性があり、無期限のロックダウンと検査だけに頼ることはできないと再認識したと述べています。また、新型コロナウイルスに対する国の対策がゼロトレランス（新型コロナウイルスとの戦いは敵との戦いのようなもの）からウイルスとの共存（ウイルスを完全に制御することはできない）へと大きく変化したことを認めました。

ベトナムは、現在、必要なワクチンの確保とワクチン接種の普及に加えて、保健医療システム能力の強化、流行地への人材の動員や物資の供給などに取り組んでいます。これらの取り組みで、第4波は今年中に収束を迎えるでしょう。